

20秋冬仕入れガイド

先行きが見通しづらく

慎重姿勢で数量抑制

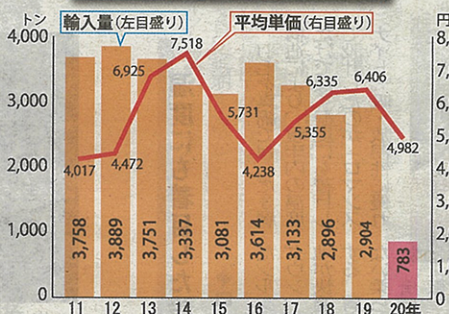
新型コロナウイルスの感染拡大で先行きの不透明さが増す中、20秋冬向け寝具寝装品商戦の予測が難しくなっている。商談の遅れとともに、仕込み数量を抑える動きが目立っている。

20秋冬向け商談に遅れ

初回投入量抑える動き

20秋冬向けは、19秋冬と対照的だ。19秋冬は、よの遅れている。緊急事態宣言による外出自粛要請で4、5月に商談が思ひ込めず、GMS(総合スーパー)や通販で積宣言が解除された6月以降、秋冬商戦が例年より早まったことで寝具製造知などの納品も前倒しで進んだ。20春夏商品が売れず在庫が積み上がったという

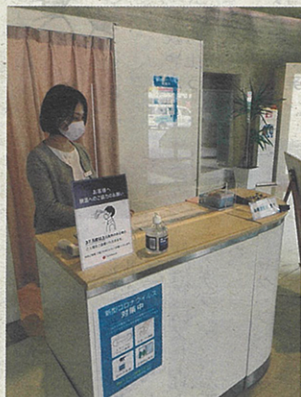
羽毛原料の輸入量と平均単価の推移 (20年は1~5月:財務省貿易統計)



ともに、新型コロナウイルス感染不透明さが増す中、慎重な計画にならざるを得ない。20秋冬の初回投入数は、前年より減少する動きが強い。20秋冬の初回投入数は、前年より減少する動きが強い。

寝具展示会

新型コロナで開催に難しさ



新型コロナの感染防止の仕切りなどを設けた内見会受付(西川・大阪オフィス)

新型コロナウイルスの感染拡大で、寝具製造卸などが20秋冬展示会を通常通り開催できなかった。例年秋冬展は4、5月ごろに開かれるが、今年は開催した企業が一部にとり、内見会の形で開催して

も緊急事態宣言による外出自粛要請の中で「来ていただく」と言えないやりの「(寝具)製造卸」があった。例年であれば、展示会での顧客の反応も踏まえて備蓄販売商品の仕込み数量を絞り

込む。しかし、顧客の反応を十分つかめず、先行きの不透明さがある中で、数量は抑え気味になるざるを得ない状態になっている。オンライン会議ツールの「ZOOM(ズーム)」や「ミーティング」を活用した非対面での商談も行が、ウェブセンターの話になり、ディテールまでうまく伝えられぬ「難しさ」などがある。

今春以降の展示会はアルコール消毒、マスク着用、体温測定などが当たり前になった。従来とは異なる制約された環境の中で、試行錯誤が続いている。

毛布工場の稼働率6割

フレキシブルに対応

毛布も6月以降の商談の活発化が期待されたが、7月中旬まで6割程度にとどまった。寝具の繁忙期を迎える時期製造卸経由のネット通販向けの受注などもあるものの、実店舗向けは停滞している。

抗ウイルス商材本格投入

眠りにチャンスも

前年からの持ち越し在庫で対応しようとする動きもあり、毛布でも先行きが見通せない中でリスク低減を図る。寝具製造卸や小売りが発注のタイミングや数量をきりきりまで見極めることで、生産サイドには急な発注に心えられる柔軟さが求められる。

新型コロナウイルス禍で、抗ウイルス機能を持つ寝具の販売が一般家庭用途でも目立ち始めている。小売りがサイドの引き合いは増えているが、エンドユーザーへの浸透はこれから。20秋冬商戦が本番になるだろう。

ダウンマークタグとラベルが、新しくなりました。

DOWNMARK
CERTIFIED QUALITY
QUALITÉ CERTIFIÉE

DOWNMARK.ORG

JP10491
DOWN ASSOCIATION
OF CANADA
ASSOCIATION
CANADIENNE
DU DUVET

DOWNMARK®は、カナダ羽毛協会(本部:カナダトロント市)の商標登録です。
本物のカナダ産羽毛を使用した掛けふとんには、カナダ羽毛協会が品質を保証しているダウンマークタグと縫込みラベルが付いています。
日本におけるカナダ産羽毛や製品については、『カナダ羽毛協会日本支部』までお問合せください。

www.dac-jb.jp
www.downmark.org

20秋冬仕入れガイド

見た目も寝心地もスマート

◆小栗

敷パッドとボックスシーツを二体型にすることで、見た目も寝心地もスマートにした小栗の「スマートパッド」。就寝中の寝返りで敷パッドのズレが気になる人、側面のゴムバンドが見えるのが気になる人などに、お薦めの商品だ。二体型になったことで、敷パッドとボックスシーツの両方にかかっていた着脱の手間や洗濯の量も半分まで減る。20秋冬は綿ペロアやフランドル素材を中心に展開。寝具店などに向け、スマートパッド全体で約1万枚の販売を計画している。



同時に「頸椎サポート低反発まくら」「ラインで支える高反発まくら」「ホテル仕様まくら」など機能性枕も訴求する。

機能的な羽毛こたつとん

◆山甚物産

洗濯機で洗える羽毛こたつとんを使い分けができる。サイズは正方形（2100×2100）、長方形（2100×2600）、ジャンホ（2100×2800）の3種類をそろえている。中材はホワイトダウン、スモールフェザー各50%。充填（じゅうてん）量は正方形0.9、長方形1.1、ジャンホ1.25。側生地はポリエステル85%×綿15%。20秋冬向けに抗ウィルス加工を施し、洗濯耐久性・安全性に優れた素材を使った商品の開発を進めている。



自社生産は、消費財のため、細かいシナルカ（シナルカ）の加工を

羽毛のスペシャリストとして

◆ホップライオンジャパン

ホップライオンジャパンは羽毛のスペシャリストとして、羽毛原料の品質向上と安定供給を図っている。国内提携工場の機能をフルに活用し、アレルギー対策や臭い対策など羽毛ふとんの画期的な性能向上も推進。資源保護のための羽毛稀少羽毛のダウンマーク



新しくなったダウンマーク

のタグとラベルが刷新された。同社はカナタ羽毛協会、日本支部とともに、日本国内でそのPRと普及にも努めている。

SDGs対応の羽毛ふとん用生地

◆藤山

藤山は「ベンベルク」使用などSDGs（持続可能な開発目標）対応の羽毛ふとん用生地を訴求する。ベンベルクは、元々コットンのセルロース繊維で吸水性・吸湿性に優れる。これを20〜25%使用。優れた光沢と風合いも特徴だ。2品番で展開中。「リブリープ」羽毛ふとん地は、リサイクルペットボトルを利用した再生繊維を約30%使用した。ふとん側地1枚分で500g以上のペットボトル約5本分に相当する。ペットボトルを回収することは海洋汚染にならない。プラスチックの削減にもなる。GRS（グローバルリサイクルイニシアティブ認証）の認証を受けている。その結果



睡眠時呼吸器疾患の予防を目的とした研究から、8年には「賞」を受賞。リースの量も削減されている。その結果

オーガニック

FU